

# 「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」

## 対応状況公開資料(概要版)

公開日：平成 24 年 5 月 28 日  
最終更新日：平成 31 年 2 月 3 日

株式会社かなめ技術開発  
予報業務許可第 190 号（地震動）

本資料は、平成 23 年 4 月 22 日に気象庁から公開された「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」への当社地震動予報業務許可（許可第 190 号）を使用している製品の対応状況を公開するものです。「予報業務の許可等に関する審査基準、標準処理期間及び処分基準（通達）」（平成 24 年 2 月 23 日制定、平成 24 年 3 月 1 日適用）では、許可事業者は利用者にガイドラインの「端末利用者が施す措置の一覧表」掲載の各項目に対する対応状況について利用者に十分な説明を行うことが義務づけられました。本資料は、それらに対する適合状況を公開するものです。

製品名	緊急地震速報活用防災システム KANAME-QUICK Version 3.20
製造年月日	平成 23 年 1 月
提供形態	自社ブランド製品
動作環境	Windows PC 上で動作するソフトウェア。 対応可能配信事業者・サービス：(a)一般財団法人気象業務支援センター、(b)株式会社 ANET（スタンダードプラン）、(c)株式会社 ANET（シンプルプラン）、(d)アイテック阪急阪神株式会社、(e)特定非営利活動法人リアルタイム地震・防災情報利用協議会、(f)スカパーJSAT 株式会社
使用目的	B. オペレータを介した機械・館内放送設備等の制御 C. 端末の報知による人の危険回避

予報許可事業者・許可番号	該当端末で予報を提供している事業者名と気象庁予報番号。	事業者名：株式会社かなめ技術開発 許可番号：第 190 号
使用する予報の種類	該当端末が使用している予報は、右欄でチェックが入っている (■) のものです。	■地震動（震源由来震度）：従来手法 ■地震動（波面伝播非減衰震度）：PLUM 法
予報を行うために使用している資料	該当端末で予報を提供する元となった情報は、右欄でチェックが入っている (■) のものです。	■緊急地震速報（予報）電文 □緊急地震速報（警報）電文 ■リアルタイム震度電文 □事業者独自に観測したデータ □その他（ ）

	項目	適合状況説明	備考
1	気象庁が緊急地震速報(予報)・リアルタイム震度電文を発表してから端末が報知または制御を開始するまでに要する時間	気象業務支援センターが緊急地震速報（予報）・リアルタイム震度電文を配信してから端末に緊急地震速報（予報）が届き、画面表示を開始するまでに要する時間は 1 秒以下です。	詳細版の(1)-2, (4)-1 を参照。
2	気象庁から端末まで、配信を途切れさせないような対策	気象庁から配信サーバーまでは各配信事業者が回線やサーバーを冗長化することによって、配信を途切れさせないような対策を取っています。 また、配信事業者は端末の接続状態を監視しており、端末は自己診断機能により受信画面で異常を通知します。	配信事業者ごとの具体的な対策については、詳細版の(4)-2, 8 を参照。 端末の自己診断機能については、詳細版の(1)-1, 7 を参照。
3	時刻合わせ	端末には NTP サーバーによる時刻校正、配信サーバーからの電文による簡易時刻校正機能があります。 配信サーバーの時刻校正については、各配信事業者で対策を取っています。	端末の時刻校正機能については、詳細版の(2)-2 を参照。 配信サーバーの時刻校正機能については、詳細版の(4)-6 を参照。
4	配信・許可事業者によるサポート	配信に関する問い合わせは基本的に配信事業者のサービスによりますが、配信に関する窓口も当社で行うことも可能です。端末に関する連絡や利用に関するサポートは当社が行っています。 配信事業者と許可事業者である当社の連携によりサポートを実施しています。	サポート内容の詳細については、詳細版の(5)-1 から 8 を参照。
5	耐震固定等地震の揺れへの対策	本製品はソフトウェア製品であり、ソフトウェアをインストールしたパソコン	詳細版(1)-6 に記載。

		を、耐震固定具等を利用して固定してください。	
6	無停電化	ソフトウェアをインストールした PC に無停電電源装置等を接続して対応することが可能ですが、無停電化される場合は周辺通信機器等 PC 以外の機器についても必要です。	導入時に相談いたします。
7	端末の冗長化	常時2系統動作、ホットスタンバイ、コールドスタンバイ等の冗長化構成をご提案することは可能です。	導入時に相談いたします。
8	回線	使用目的に応じて配信事業者のサービスとともに推奨する回線をご提案いたします。本端末は複数の配信事業者の複数のサービスに対応しているため、目的・予算に応じたプランをご提案可能です。	導入時に相談いたします。
	常時接続できる回線 専用線等信頼性の高い回線		
9	サーバー端末間の物理回線の冗長化	対応可能です。複数の配信事業者の複数のサービスに対応しているため、目的に応じて複数の構成をご提案可能です。	導入時に相談いたします。
10	予想した猶予時間	猶予時間の設定機能はありません。主要動到達が過ぎた情報でも画面出力しません。予想した猶予時間は画面表示でカウントダウンを行います。	詳細版(3)-1, (3)-4 に記載。
11	予想した震度	端末を動作させる震度の設定機能はあります。緊急地震速報（警報）と整合した動作も可能です。予想した震度は画面表示のみで報知します。	詳細版(3)-1, 2, 4 を参照。
12	精度情報	設定機能があります。起動条件は、「1点処理でも表示する」「2点以上の処理時のみ表示する」「警報発表時のみ表示する」「警報対象時のみ表示する」の中から選択します。 表示画面ではどの条件で表示しているかは示しません。100ガル超えでは震度の予想ができないため、震度の表示を行いません。	詳細版(1)-12, (3)-5, 6 を参照。
13	深発地震についての緊急地震速報（業）	震源の深さが 200km より深いものについては従来手法（距離減衰式）による震度予想を行わず、震度の画面表示を行いません。PLUM 法による震度予想は行います。	詳細版(3)-9 に記載。
14	放送・報知内容	予想した震度と猶予時間は画面表示で報知します。外部出力機能はありません。PC から音を出すことは可能で、報知音として NHK チャイム音、REIC のサイン音が内蔵されており、選択することができます。このほかに利用者が WAV 形式の音源ファイルを用意することで、独自の音を指定することも可能です。	詳細版(1)-8, (3)-3, 4 を参照。
15	緊急地震速報（業）で制御、放送、報知を行った後に同一地震また	一度起動条件を満たした地震に関する緊急地震速報（予報）の続報を受信した場合には、表示画面は常に新しいものに更新されます。後から受信した別の地震の	詳細版(3)-7, 8 に記載。

緊急地震速報活用防災システム KANAME-QUICK Version 3.20

	は別の地震について提供される緊急地震速報（業）	緊急地震速報（業）でも出力条件を満たした場合は、新しいものの表示に入れ替わります。これらの動作について利用者は設定できません。	
1 6	キャンセル報	既に出力を行った地震に関してキャンセル報を受信した場合には、画面表示で「キャンセル報」と表示します。動作していない緊急地震速報（予報）に関するキャンセル報を受信しても何もしません。	詳細版(3)-10 に記載。
1 7	試験	端末単独では、「デモ地震再生機能」「過去地震再生機能」により、想定地震におけるシミュレーションやすでに受信した緊急地震速報（予報）の再生（画面表示と音による報知）を行うことができます。 配信サーバーからのテスト報送信については、配信事業者により対応が異なりますが、テスト報を送信できる配信事業者であればそれを使った動作試験が可能です。	端末機能については、詳細版(1)-9,(3)-12 に記載。 配信事業者のテスト報配信については、詳細版(4)-9 を参照。
1 8	訓練	端末は配信事業者から配信される訓練報を表示する機能を搭載しています。画面表示では、それが訓練報であると分かる表示を行います。訓練報を動作に使うかどうかは出力条件として設定することができます。	端末機能については、詳細版(1)-10,(3)-11 に記載。 配信事業者の訓練報個別配信については、詳細版(4)-9 を参照。
1 9	配信・許可事業者への連絡	配信に関する問い合わせは基本的に配信事業者のサービスによりますが、配信に関する窓口も当社で行うことも可能です。端末に関する連絡や利用に関するサポートは当社が行っています。 配信事業者と許可事業者である当社の連携によりサポートを実施しています。	サポート内容の詳細については、詳細版の(5)-1 から 8 を参照。

以上

更新履歴

平成 24 年 5 月 28 日	Version 1	初版
平成 26 年 5 月 15 日	Version 2	許可番号変更
平成 31 年 2 月 3 日	Version 3	PLUM 法追加による記載内容追加